

2017年5月29日

理事会・評議員会 資料

社会福祉法人 友の会
理事長 土居 賢二

2016年度 事業計画にもとづく実施報告

2016年度の事業について次の通りご報告致します。(詳細:次ページ以降を参照願います)

1. 2016年度の事業の特徴

「事業運営の基本」について

昨年度同様、2009年度からの「事業運営の基本」について、2016年度も次の7項目とし、事業計画に反映した。また、中期計画は今後の課題として残った。

- (1) なかまが楽しく通える、家族が安心できる場所であること
- (2) なかまの人格を尊重し、お互いの信頼関係を築くこと
- (3) なかまの望みを大切に、その実現に努力すること
- (4) なかま・家族・支援のあり方等、職員の情報共有が出来ていること
- (5) なかまを支援する職員の人格が尊重され、将来に夢を持てること
- (6) 健全な財政運営を心がけ、環境・設備等を常に整備すること
- (7) 利用者初め、障がい者の権利等を学習・理解し、実現に力を合わせる

2. 実際の事業運営についての報告

2-1. 2016年度事業計画の基本は次の6点を掲げ運営、施設増設が実現する運びとなり大きな前進を遂げることが可能となりました。

- (1) 「施設増設」「利用者増への対応」に向けて、補助事業が確定したため、2017年度竣工に向け大きな前進を図ることが出来ました。
- (2) なかま運営における障がいを乗り越え、この経験を活かし、一層利用者のための法人・施設運営を推進します。
- (3) 「なかまふれあいまつり」の実績を生かし、今年も地域との交流を一層推進します。
- (4) 職員研修および福祉関連資格取得の推進等により支援・指導の向上を図ります。
- (5) 「障害者権利条約」の学習会は不十分さがあり2017年度から再度、利用者・家族・職員の間で実施します。
- (6) 「生活施設建設」に向けて、引き続き実現性の検討を継続します。

2-2. 特筆すべき事項について次の通り報告します。

- (1) 地域交流は今年度もすすみ、3年連続での「松山市職員福祉研修受入」、しげのお特別支援学校での講演、松山盲学校・北中学校・勝山中学校・城南高校・みなら特別支

援学校・太山寺保育園との、交流/現場実習/見学、例年以上の各団体へのバザー参加、なかままつりへの和気小/森田ダンス/愛大ダンス部/アカペラオレンジの参加など大変な広がりを見せた。

昨年度は「太山寺保育園」にて交流会を実施したが、今後も高齢者施設を中心に利用者・職員有志による交流を継続したい。

- (2) 施設開設以来のご家族の想い(利用者の置かれた歴史・現状を知る)であった「家族の話聞く会」は昨年度の実施はみおくられたが、再検討をしたい。また、松山市・社協などの研修には積極的に参加した。
- (3) 「障害者権利条約」「障害者差別解消法」などの学習は、アウシュビッツの障害者虐殺などのTV放映の観賞など一部実施、なかなか時間が確保出来ず不十分となった。
- (4) 「日本財団」助成により、「送迎車(車いす4台対応)」が導入された。また、「ひめぎんCSR倶楽部」から「手動式強力裁断機」の寄付を受けることができた。

2-3. 生活介護・就労継続支援B型の個別の運営について

それぞれの事業について次の通り運営を行って来ました。

【生活介護】

- (1) 利用者の排泄及び食事等の介助、創作的活動又は生産活動の機会の提供、レクリエーションその他必要な援助を行い、身体機能又は生活能力の向上に努力しました。
- (2) 日常的には散歩・清掃・買物・アルミ缶・シュレッダーなどの作業を行いながら、グループ全体で月4～5回のイベントを実施してきました。
- (3) 利用者の工賃は、「身体障がい者授産施設(通所)」として、設立された「なかま共同作業所」の伝統を重んじ、障がい者である利用者を「就労B型」と差別することなく支払うことを継続してきました。(「本人支給金」として)

【就労継続支援B型】

- (1) 利用者の能力及び適正に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことが出来るよう、就労支援を行い、特に本人の就労希望職種を重視してきました。
- (2) 地域の実情ならびに製品・作業の需要・供給状況を考慮し、また作業時間、仕事量及び生活時間等が利用者に過重な負担とならないよう配慮してきました。
- (3) 利用者工賃を少しでも引き上げるため、事業の見直し・選択・集中を行い売上増を図るために引き続き知恵を出して努力して行きます。
- (4) 個々の事業として、点字印刷/名刺・封筒印刷/製菓製造/木工品製作/外請け事業を、利用者の障がいの特性と本人希望の重視から作業支援を行ってきました。特に、外請けは「工賃」としては割りに合わないが、様々な軽作業があり就労として多様な形態が取れることもあり、施設として重視しています。点字印刷は職員の退職から受けることが不可能となったが、早急に体制を整えたい。

【共通】

実際の運営においては、生活介護でも利用者の特性に応じて、「就労」を希望又は可能性が

あれば、垣根を越えて積極的に就労支援を行ってきました。

2-4. 2016年度施設整備事業他について

- (1) 2016年度、特筆すべき整備事業としては、「施設増設に係る補助が決定」したこと。「日本財団：送迎車(車いす4台対応)」助成が決定し導入できたこと。「ひめぎんCSR倶楽部：手動式強力裁断機」の寄付を受けたこと。新年度での就労事業の伸張を期します。

物 件 名	事業総額	補助・助成	法人負担
施設整備補助事業(増設)	37,120,680	32,133,000	4,987,680
送迎車(車いす4台対応)	3,218,940	2,450,000	768,940
手動式強力裁断機	241,000	241,000	0
合 計 金 額	40,580,620	34,824,000	5,756,620

- (2) 上記以外の主な施設整備につき、次の通り報告します。

月	施設整備事業内容	金 額
5 月	厨房冷凍冷蔵庫増設(利用者増による)	80,000
5 月	施設入り口看板修復	26,000
5 月	製菓室用ラベルプリンタ購入	54,500
6 月	送迎車1号車スライドドア損傷修理	62,180
12 月	4号車エンジン損傷交換	260,000

以上